

学校便り

プラハ日本人学校

TEL : 233 340 000

FAX : 224 313 684

Email : gakko@jpschool.cz

No.890 2017/6/13

JAPONSKÁ ŠKOLA V PRAZE

# VLTAVA

学校教育目標

「自ら学び共に学ぶ、豊かな心と国際性あふれる たくましい児童・生徒の育成」

目指す子ども像

かしこい子・やさしい子・たくましい子・世界で生きる子

## リディツェ平和祈念式典に参加して

(朝会での校長講話)

今日はリディツェの平和祈念式典の話をししましょう。リディツェと言う村は、今から75年前の6月に突然村が消されてしまいました。第2次世界大戦という大きな戦争の時、ナチスのヒットラーの命令で500人いた16歳以上の村民は全員銃殺され、子どもたちは強制収容所に連れて行かれ82名の子どもたちが命を奪われました。みんなと同じくらいの年齢の子どもたちが殺されたのです。この悲劇を絶対に忘れてはいけないということで、毎年6月には平和祈念式典が行われています。特に、殺された82名の子どもたちのブロンズ像は、ウヒチローバさんが石こうで作ったものをブロンズ像にするために、世界中から寄付が集まりました。実は日本人学校もその当時寄付をしています。ここに持ってきた小さなブロンズ像は、寄付をしてくれた人たちに配られたもので、いろいろな人を渡って日本人学校に届きました。



6月10日の式典には、本校からも西中児童生徒会長を中心に、23人の児童生徒が行き、合唱と器楽合奏そして黙とうを捧げました。また、全校のみんなが作ってくれた千羽鶴と花束を置いてきました。その花束には、日本人学校の名前と『Nezapomeneme』(私たちは忘れない)とチェコ語で書かれていました。さて、何を忘れてはいけないのでしょうか。そうですね。ここで82名の子どもたちが殺されたという事実を忘れないということです。でも、もう一つ忘れてはいけないものがあります。それは、殺された人々を失った悲しみ、殺した人間への怒り、あるいは憎しみもあるかもしれません。殺された人たちの苦しみも忘れない。そういった気持ちや感情も絶対に忘れてはいけないと思います。

でも、大切なことがあります。

悲しみや怒りの感情は忘れないけれども、感情のままに行動はしないということです。今日も朝のラジオでこんなニュースがありました。「ある国は、別の国の行為に対して怒りを感じています。」しかし、戦争になるわけではありません。怒りをそのまま行動にうつすのではなく、「私はおこっています」と言葉で伝えることが大切なのです。みんなの中には、他人に腹を立てて、すぐに手を出したり足を出したりする人はいませんか。「ぼくはこんなことで怒っているんだ」って言葉にして話し合うことを、実は民主主義といいます。ヨーロッパで発明された問題を解決する方法です。今月の生活目標は、「気持ちの良い言葉を使おう」そして「話をしっかり聞こう」これも民主主義の基本です。リディツェの悲劇で忘れてはいけないことは、言葉の大切さかもしれません。皆さんの毎日の生活も民主主義の練習です。そのことが、リディツェのような悲しい出来事を二度と起こさない強い力になっていくと信じています。

(児童生徒会長・西中さん；式典でのあいさつ)「私たちは歌を歌い、楽器を演奏することで、平和を願いたいと思います。今、目の前にある『子ども像』は何度見ても心が痛みます。75年前、私たちと同じくらいの年齢の子どもたちが自由を奪われ殺されました。もう二度とこのようなことが起こらないよう祈ります。」

